

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-76994

(43)公開日 平成8年(1996)3月22日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 9/06 17/60	5 5 0 L	7230-5B	G 0 6 F 15/ 21	Z

審査請求 有 請求項の数7 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平6-206527

(22)出願日 平成6年(1994)8月31日

(71)出願人 000004237

日本電気株式会社  
東京都港区芝五丁目7番1号

(72)発明者 久保田 幸子

東京都港区芝五丁目7番1号 日本電気株  
式会社内

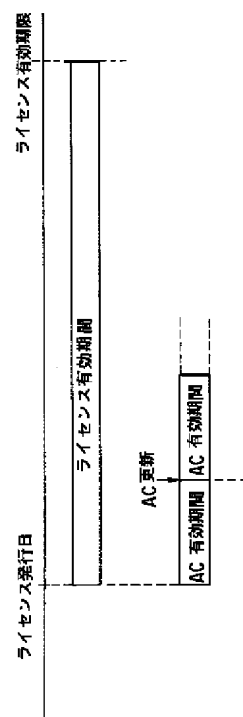
(74)代理人 弁理士 若林 忠

(54)【発明の名称】 ソフトウェアライセンス管理方法および装置

(57)【要約】

【目的】 ユーザのアプリケーション利用目的や利用期間に応じたライセンス使用料の設定ができ、また、より少ない工数でライセンス管理手続を行なうことを可能にする。

【構成】 ライセンス有効期間とAC有効期間が別々に設定され、AC有効期間は必要に応じて更新される。



1

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 ソフトウェアアプリケーションの利用権利であるライセンスの有効期間を定める段階と、前記ソフトウェアアプリケーションの実際の利用を可能とする利用許諾承認検証用ファイルであるオーソライゼーションコードの有効期間をユーザの要求に基づいて前記ライセンスの有効期間の範囲内において定める段階と、前記オーソライゼーションコードの要求期間に応じた前記オーソライゼーションコードを生成する段階とを含むソフトウェアライセンス管理方法。

【請求項2】 前記第1の段階は、ユーザ名、対象アプリケーション名、ライセンス発行日、ライセンス有効期間を記録するものである、請求項1記載のソフトウェアライセンス管理方法。

【請求項3】 前記第2の段階は、オーソライゼーションコード発行日とオーソライゼーション有効期間を記録するものである、請求項1または2記載のソフトウェアライセンス管理方法。

【請求項4】 オーソライゼーションコード更新要求があった場合、該当ユーザの要求アプリケーションに対してライセンスが設定されているか、設定されていればライセンス有効期限を過ぎていないかどうかを判断し、ライセンス有効期限内であれば、更新したオーソライゼーションコードについてオーソライゼーションコード発行日とオーソライゼーションコード有効期限を記録する段階と、オーソライゼーションコード要求期間に応じたオーソライゼーションコードを生成する段階を含む、請求項2または3記載のソフトウェアライセンス管理方法。

【請求項5】 ライセンス管理データベースと、入力手段と、前記入力手段からライセンス発行処理要求がなされ、対象アプリケーション名や要求ユーザ名が入力されると、これら入力情報から、ライセンスを発行するか否かを判断し、発行する場合には、ライセンス発行処理として、要求ユーザ名、対象アプリケーション名、ライセンス発行日および前記入力手段から入力されたライセンス有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、続いてオーソライゼーションコード発行処理としてオーソライゼーションコード発行日および前記入力手段から入力されたオーソライゼーション有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、生成したオーソライゼーションコードを媒体に格納するライセンス・オーソライゼーションコード発行手段と、

前記入力手段よりオーソライゼーションコード更新要求があると、前記ライセンス管理データベースを元に、該当ユーザの要求アプリケーションに対してライセンスが設定されているか、設定されていればライセンス有効期限を過ぎていないかどうかを判断し、ライセンス有効期

2

限内であれば、更新したオーソライゼーションコードについてオーソライゼーションコード発行日とオーソライゼーションコード有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、生成したオーソライゼーションコードを媒体に記録するオーソライゼーションコード更新手段を有するソフトウェアライセンス管理装置。

【請求項6】 スタンドアロンマシンに実装されている請求項5記載のソフトウェアライセンス管理装置。

【請求項7】 前記入力手段がユーザホストに設けられ、前記ライセンス管理データベースと前記ライセンス・オーソライゼーションコード発行手段とオーソライゼーションコード更新手段が、前記ユーザホストとともにネットワークに接続されたライセンス管理ホストに設けられている請求項5記載のソフトウェアライセンス管理装置。

## 【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はソフトウェアライセンス方法に関し、特に、期間を定めてソフトウェアアプリケーションの利用を可能にするライセンス方法に関する。

【0002】

【従来の技術】近年、ソフトウェアアプリケーションの開発の投資費用は莫大な金額にのぼり、更に例えばL S IのCAD分野でのアプリケーションでは設計上の機密情報をも含まれている点でアプリケーションを設計資産として保護し、精密情報漏洩を防止することが事業上極めて大切である。

【0003】その為、ソフトウェア資産を保護し不正利用を防ぐ手段として、利用契約締結（ライセンス契約）とソフトウェアにプロテクションを実装することが一般的な施策として行われている。

【0004】ライセンスはアプリケーションの利用を契約に基づく許可制にすることで、開発元の権利を守るものである。利用契約に基づきライセンス使用料を課す場合が多く、これによりアプリケーション開発元に、開発費用を回収することができる。また、ソフトウェアプロテクションは、ユーザにアプリケーションを提供する際にプロテクションを解除するAC（オーソライゼーションコード）を合わせて提供することで、当該アプリケーションの利用を許可ユーザに限定し不正使用を防止することができる。

【0005】従来、このACはライセンス契約に基づきライセンス期間に対応した期間を有効とするものを生成しユーザに提供している。例えば、特開平4-104325号公報は、利用契約時にアプリケーションの使用期限を決定し、ツール実行時度にACを参照し実行可能かどうかを検証する手段を取っている。また、特開平1-166218号公報では、利用契約時に使用可能期間を設定する他、契約満了期限の前の警告期間並びに期限後の猶予期間を設定することで、契約期間中並びに契約期

間終了後のツール利用頻度により費用を回収する方法を提示している。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】 前述の特開平4-104325；特開平4-166218ではいずれも、事前の利用契約に基づいてライセンス期間が定められており、それに対する単発の管理である。また、それらにおいては、図5に示すように、ライセンスと実際にユーザマシン上に搭載されるACは同一管理下にある。

【0007】 その為、契約終了後に更に当該アプリケーションを使用する場合には、再度契約更新という手続きを踏み、引き続きライセンスを更新し、更新したライセンスに対応したACを生成し、ユーザに提供しなおすという手間が発生する。

【0008】 ツールを評価や継続運用として利用する場合には、使用を予想する妥当期間で契約し繰り返すことが一般的である。更に、ツールが高額でありライセンス使用料が高額である場合や利用頻度が短期で区切られる際にも契約更新という一連の処理を繰り返すことが必要になり、その都度更新工数が発生するという問題がある。

【0009】 本発明の目的は、ソフトウェアアプリケーションの利用頻度や利用期間など各ユーザの用途に木目細かく対応でき、かつ最小工数でACを提供するライセンス管理方法および装置を提供することにある。

【0010】

【課題を解決するための手段】 本発明のソフトウェアライセンス管理方法は、ソフトウェアアプリケーションの利用権利であるライセンスの有効期間を定める段階と、前記ソフトウェアアプリケーションの実際の利用を可能とする利用許諾承認検証用ファイルであるオーソライゼーションコードの有効期間をユーザの要求に基づいて前記ライセンスの有効期間の範囲内において定める段階と、前記オーソライゼーションコードの要求期間に応じた前記オーソライゼーションコードを生成する段階を有する。

【0011】 また、本発明のソフトウェアライセンス管理装置は、ライセンス管理データベースと、入力手段と、前記入力手段からライセンス発行処理要求がなされ、対象アプリケーション名や要求ユーザ名が入力されると、これら入力情報から、ライセンスを発行するか否かを判断し、発行する場合には、ライセンス発行処理として、要求ユーザ名、対象アプリケーション名、ライセンス発行日および前記入力手段から入力されたライセンス有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、続いてオーソライゼーションコード発行処理としてオーソライゼーションコード発行日および前記入力手段から入力されたオーソライゼーション有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、生成したオーソライゼーションコードを媒体に格納するライセンス・オー

ソライゼーションコード発行手段と、前記入力手段よりオーソライゼーションコード更新要求があると、前記ライセンス管理データベースを元に、該当ユーザの要求アプリケーションに対してライセンスが設定されているか、設定されていればライセンス有効期限を過ぎていないかどうかを判断し、ライセンス有効期限内であれば、更新したオーソライゼーションコードについてオーソライゼーションコード発行日とオーソライゼーションコード有効期限を前記ライセンス管理データベースに記録し、生成したオーソライゼーションコードを媒体に記録するオーソライゼーションコード更新手段を有する。

【0012】

【作用】 本発明のライセンス管理方法では、ライセンスとACを別々に管理する。つまり、図1に示すように、ライセンス有効期間とAC有効期間を別々に設定する（但し、AC有効期間は、ライセンス有効期間内に制限される）。

【0013】 これにより、一旦ライセンスが設定された後ライセンス有効期間中はACの生成並びに更新のみを取り扱えば良いことになる。

【0014】

【実施例】 次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

【0015】 図3は本発明の一実施例で、スタンドアロンマシンに実装されたソフトウェアライセンス管理装置の構成図、図2はソフトウェアライセンス管理装置で行なわれるライセンス・AC発行処理とAC更新処理の流れ図である。

【0016】 本実施例のソフトウェア管理装置は、ライセンス発行要求、AC更新要求、対象アプリケーション名、要求ユーザ名などを入力するためのキーボード1と、ライセンス有効期間、AC有効期間が記録されるライセンス管理DB（データベース）2と、ライセンス・AC発行処理、AC更新処理などを行なうCPU3と、キーボード1からの入力内容、ライセンス管理DB2の内容などを表示するCRT4と、生成されたACが格納されるフロッピーディスク（生成ACファイル）5から構成されている。

【0017】 次に、本ライセンス管理装置の動作を説明する。

【0018】 まず、キーボード1からライセンス発行要求を入力し、対象アプリケーションや要求ユーザを入力する（ステップ11）。これら入力情報から、ライセンスを発行するか否かの判断処理を行なう（ステップ12）。結果としてライセンスを発行する場合には、ライセンス発行処理として、契約に基づいたライセンス有効期間をキーボード1より入力し、磁気ディスク上にライセンス管理DB2としてユーザ名・対象アプリケーション名・発行ライセンスの発行日・ライセンス有効期限を記録する（ステップ13）。引き続き、AC発行処理と

5

して、ユーザが求めるAC有効期間をキーボード1より入力し、AC発行日と生成ACの有効期限を上記同様にライセンス管理DB2に記録する(ステップ14)。次に、AC生成を行ない、ユーザに提供するフロッピーディスク5に生成したACを格納する(ステップ15)。

【0019】その後、アプリケーションの継続使用等によりAC更新要求があった場合には、キーボード1よりAC更新要求を行なう(ステップ16)。次に、ライセンスDB2の情報を元に、該当ユーザの要求アプリケーションに対しライセンスが定義されているか、またライセンス有効期限を過ぎていないか否かを判断し(ステップ17)、ライセンス有効期間内であれば、更新したACについてAC発行日並びにAC有効期限をライセンス管理DB2に記録する(ステップ18)。次に、AC有効期間を記述したACを生成してフロッピーディスク5に格納する(ステップ19)。

【0020】図4は本発明の他の実施例で、ネットワークに接続されたソフトウェアライセンス管理装置の構成図である。

【0021】本実施例では、ライセンス管理ホスト6とユーザホスト7が各々ネットワーク8に接続されている。ユーザホスト7にはユーザインタフェースプログラムが搭載され、その中でユーザ名・要求ツール名を指定し、ライセンス管理ホスト6にアクセスする。ライセンス管理ホスト6には、ライセンス管理DB2と、ユーザホスト7からのアクセスによりライセンス管理DB2を参照し、該当ツールのAC生成・転送処理とライセンス管理DB更新処理を行なうプログラムが搭載されている。

【0022】ユーザホスト7から該当ツールのAC生成入力要求があった場合、ライセンス管理ホスト6において、ライセンス管理DB2を参照し、該当ライセンスが存在し、かつ有効であることを確認した後、ライセンス有効期間内の範囲で要求された期間を有効とするACを生成し、その記録をライセンス管理DB2に記述し、生

6

成ACファイル5をユーザホスト7へ転送する。

【0023】

【発明の効果】以上説明したように、本発明は、ライセンス有効期間とAC有効期間を別々に設定することにより、以下に示すような効果がある。

(1) ライセンス有効期間内において、AC発行更新手続の自動化が可能となる。

(2) アプリケーションの利用期間の長さに応じた木目細かいライセンス使用料の回収が可能である。

(3) ネットワーク環境の有無に拘らず適用できる。

(4) 更に、ネットワーク環境では、遠隔地からのアクセスによるオンラインAC自動発行が可能になり、従いAC発行処理工程の低減が可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明における、ライセンス有効期間とAC有効期間の関係を示す図である。

【図2】本発明のソフトウェアライセンス管理装置の処理を示す流れ図である。

【図3】本発明の一実施例のソフトウェアライセンス管理装置の構成図である。

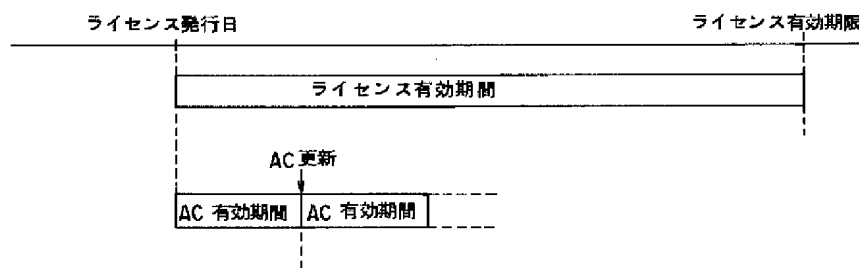
【図4】本発明の他の実施例のソフトウェアライセンス管理装置の構成図である。

【図5】従来技術における、ライセンス有効期間とAC有効期間の関係を示す図である。

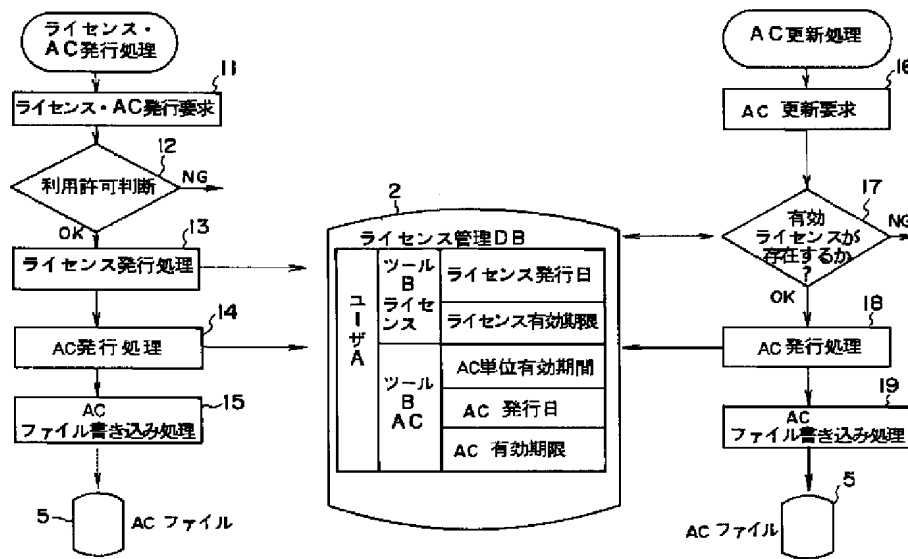
【符号の説明】

- 1 キーボード
- 2 ライセンス管理DB
- 3 CPU
- 4 CRT
- 5 フロッピーディスク(生成ACファイル)
- 6 ライセンス管理ホスト
- 7 ユーザホスト
- 8 ネットワーク
- 11~19 ステップ

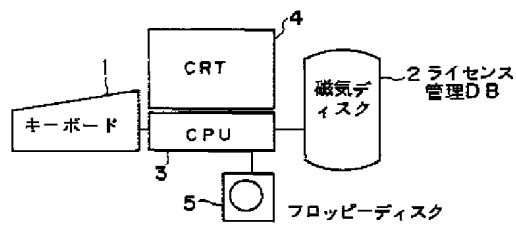
【図1】



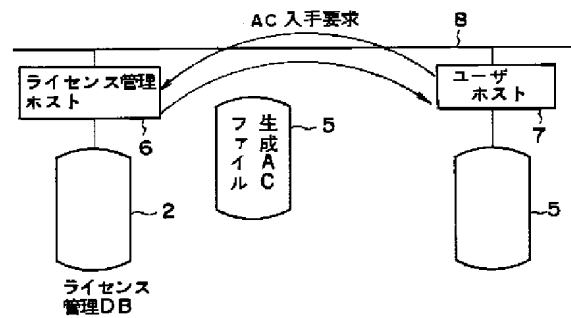
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

